

図 画 工 作 科 学 習 指 導 案

令和6年6月14日(金) 学習指導Ⅳ 第5学年1組(第1図工室) 指導者 大塚 裕貴

【題 材】カゲの絵(絵に表す)

考察	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
育成を目指す資質能力	- 影を表す際の感覚や行為を通して、紙面に映る影の形や濃淡の特徴を理解する力 (共(1)ア) - 材料の選択や加工, 材料を取り付ける数や位置, 光を照らす角度や距離などの影の表し方を工夫する力 (A(2)イ)	- 影の表し方を考えながら, 自分が表したい影について考える力 (A(1)イ) - 映った影の形や濃淡から自分なりのイメージや思いをもつ力 (共(1)イ)	影を表したり, 鑑賞したりする活動に取り組む中で, 影の表し方や映った影などに豊かに関わろうとする態度
子どもの実態	- ビニルシートを用いてステンドグラスを製作する活動では, 着色したビニルシートに太陽光が透過することで, 色面の発色が際立つことのよさや美しさを理解している。 - 絵に表す題材において, より自分のイメージや思いを表すために, 絵の構成を調整しようとする意識が不十分である。	- ビニルシートを用いてステンドグラスを製作する活動では, 色面の大きさやモチーフの構成などを工夫しながら, 自分の表したいイメージや思いを基に製作できている。 - 身の回りの様々な影の特徴の違いによって感じるイメージが異なることに気付いていない。	- 楽しみながら意欲的に絵や立体に表す活動に取り組める。 - 抽象的な作品や, 直接触れられない対象や事象と関わる際に, 自分なりの意味や価値を見いだすことが難しい場面がある。
価値	- 影は, 光が対象に当たることで暗い部分が発生する事象である。身の回りには, 校庭に映る輪郭のはっきりとした木々の影や, カーテンや服のドレープに映るなめらかな影, 水底に映る水面のゆらゆらとした影など, 影のよさや美しさを感じ取れる場面がある。影は, 光が当たる対象の透明度や色, 光源の色や強弱などの影響によって, 特徴の違いが生まれる。ときには, 影の特徴を生かし, 室内のライティングによって生まれる影がその空間を印象付けることもある。子どもにとって影は, 身近な事象であるが, 造形的な視点を基に関わる経験は少ない。そのような子どもが影と関わることは, 日常の影に対してよさや美しさを感じ取り, 豊かに関わろうとするきっかけになる。 - 本題材は, 自分が表したい影の実現に向けて, 材料を紙面に取り付け, ペンライトの光を照らして, 自分が表したい影の形や濃淡を紙面に表す活動である。子どもが影を表す際には, 材料の選択や加工, 材料を取り付ける数や位置, 光を照らす角度や距離などの影の表し方を追求していく。影を表す際に用いる材料は, 材料の透明度や材料の加工のしやすさの視点を基に, ラップフィルムやティッシュペーパー, 紙コップやストローなどを用意する。 - 材料の特徴が多様なため, 材料の選択や加工の仕方, 取り付ける数や位置などを変えることで, 影の形や濃淡, 構成を工夫できる。ペンライトを用いて光を照らすため, 角度によって影の向きや形を変化させる工夫や, 照らす距離によって, 影の大きさや濃淡を変化させる工夫ができる。	影の表し方を工夫する中で, 映った影を身の回りの事象や情景に見立てることや, 「やさしい感じ」や「ふわふわな感じ」などの抽象的なイメージをもつことを通して, 自分が表したい影について考えられる。	材料を取り付ける活動と光を照らす活動に繰り返し取り組むことは, 影のよさや美しさを感じ取れるため, 影と影の表し方などに豊かに関わることができる。
見方・考え方	紙面に取り付けた材料に光を照らして映った影を, 影の形や濃淡などの造形的な視点で捉え, 自分のイメージや思いをもちながら表したい影をつくりだすこと。		
今後の学習	6年「附属小三十六景」で構図や配色などの表現を自分なりに工夫して, 思い出の場所を絵に表す学習へと発展していく。		

指導と評価の計画

目標	自分が表したい影の実現に向けて、材料を紙面に取り付け、ペンライトを用いて紙面に影を映す活動に取り組む中で、材料の選択や加工、材料を取り付ける数や位置、光を照らす角度や距離などの影の表し方を工夫し、影の形や濃淡の視点を基に、紙面に映る影のよさや美しさを楽しめる。			
評価 規準	(①知・技) 影の表し方を基に、紙面に映る影の形や濃淡に気付いたり、自分が表したい影へのイメージや思いを基に、材料の選択や加工、材料を取り付ける数や位置、光を照らす角度や距離などの影の表し方を工夫したりしている。 (②思・判・表) 影の表し方を基に、自分が表したい影について考えたり、映った影の形や濃淡から自分なりのイメージや思いをもったりしている。 (③主体的態度) 映った影の形や濃淡の視点を基に表したい影を製作することや鑑賞することを楽しもうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○影の表し方を試したり、映った影の形や濃淡を鑑賞したりする。	○材料の特徴によって、映る影の形や濃淡が変化することに気付けるよう、ラップフィルムやティッシュペーパーなどの材料を透明度や加工のしやすさの視点を基に用意する。	◇影のよさや美しさについて発言したり、表し方を繰り返し試したりしている。 <行動・記述③>
	1	○影の表し方や、映った影の形や濃淡から表したい影を考える。 学習のめあて 影の表し方を工夫して自分なりの影を表そう	○影の表し方によって映る影の形や濃淡から感じるイメージが異なることに気付けるよう、タブレットで記録した互いの影の表し方や表した影を共有する機会を設定する。	◇映った影を身の回りの事象や情景に見立てる発言や、影から感じたイメージに関する記述や発言をしている。 <記述・作品②>
あらわす・ひろげる	4	○自分が表したい影の形や濃淡を基に、影の表し方を工夫しながら表したい影を表す。 (本時3／4時間目)	○材料の選択や加工、材料を取り付ける数や位置などの工夫を基に映った影を鑑賞できるよう、作品を展示して光を照らす角度や距離などを試せる環境を設定する。	◇映った影から感じたイメージや自分が表したい影について記述している。 <記述②> ◇材料の選択や加工、材料を取り付ける数や位置、光を照らす角度や距離を変えたり、気付いたことを記述したりしている。 <作品・記述①>
ふりかえる	1	○互いの影の表し方や映った影の形や濃淡を鑑賞する。	○互いの影の表し方や映った影の形や濃淡のよさや美しさに気付けるよう、作品を鑑賞し、感想を伝え合う機会を設定する。	◇互いの影の表し方や映った影の形や濃淡について、よさや美しさに関して記述したり発言したりしている。 <記述・作品③>

本時の学習（５／７時間目）

ねらい 材料を紙面に取り付け、光を照らして紙面に影を映す活動を通して、自分が表したい影の形や濃淡を基に、材料の選択や加工、材料を取り付ける数や位置、光を照らす角度や距離などの影の表し方を工夫することができる。

評価項目 材料の選択や加工、材料を取り付ける数や位置、光を照らす角度や距離を変えたり、気付いたことを記述したりしている。

＜作品・振り返り①＞

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1 本時のめあてをつかむ。 ・前の時間は、ラップを丸めたときの細かい皺の影を生かしたり、取り付けるラップの大きさを工夫したりして山のある景色を表してきたよ。 ・影の形を意識して山をつくったり、濃淡を意識して空に浮かぶ雲をつくったりしたいな。 （目的意識） めあて：材料の使い方や光の照らし方を工夫して、自分が表したい影の形や濃淡を表そう	○これまでの学習を通して、影の形や濃淡で工夫してきたことを自覚できるように、前時に記入した振り返りを確認するように促す。 ○表したい影の形や濃淡、表すために工夫してきた材料の選択や加工、材料を取り付ける数や位置、光を照らす角度や距離などのうち、意識してこなかった視点を自覚して製作に取り組みめるように、これまで意識してきた造形的な視点と、本時に取り組みたいことを問いかける。
2 影の表し方を工夫しながら表したい影を表す。 ・前回に続けて、大きいラップと小さいラップを組み合わせながら、いろいろな場所に取り付けて山脈をつくってみよう。 ・次は雲をつくりたいけれど、ラップだと山の影と混ざっちゃうな。材料置き場にイメージした雲をつくれる材料があるかな。 ・前の時間で試したときにティッシュの影が面白かったから使ってみたけどイメージ通りの雲にならないな。ティッシュを使っている友達を紹介されていたな。どんな使い方をしているのだろう。見てみたいな。 ・友達の作品を見せてもらったら、2枚重なっているティッシュを分けて取り付けたり、ねじって形を変えたりしていたよ。面白い使い方だな。参考にして、ティッシュを分けて取り付けて、光を当ててみると、2枚重なっているときより影が薄くなってやわらかい感じの影になるな。 ・分けたティッシュをちぎってまばらに重ねてみたら、影の濃いところと薄いところができて、雲が奥に広がっているように表せたよ。それに自分の工夫がロイロノートで友達に紹介されたよ。見に来た友達に自分の工夫を伝えたら、「いいね」って言ってもらえた。 ・今日は、ラップを組合せを工夫して山脈をつくったり、ティッシュを使って影の濃淡で空に広がる雲をつくったりできたよ。 （目的を達成した意識）	○影の形や濃淡と材料の選択や加工、材料を取り付ける数や位置、光を照らす角度や距離などを関連付けて表せるように、作品を製作する中で、材料や用具の用い方を工夫できている子どもを称賛する。 ○様々な材料の特徴から、影の表し方を想起できるように、表したい影の形や濃淡のイメージについて問いかけるとともに、教室中央に設置した材料置き場から表したいイメージを実現できそうな材料を用いるよう促す。 ○他者の影の表し方や表した影への関心を高められるように、他の子どもの影の表し方や表した影について、表した根拠を問いかけるとともに称賛する。 ○自分が表したい影の形や濃淡を基に、材料や用具の用い方を工夫できるように、材料の選択や加工、材料を取り付ける数や位置、光を照らす角度や距離などを変化させたときのイメージを問いかける。 ○友達の作品から影の形や濃淡のよさや美しさや表し方の工夫に気付けるように、影の表し方を工夫できている子どもの作品を記録した静止画をロイロノートを介して、学級全体に紹介する。
3 本時の学習の振り返りをする。 ・今日はラップ以外の材料を使って影の濃淡を意識できたな。 ・次の時間は、山脈のでこぼこがはっきりする光の照らし方を意識したいな。	○本時の学習において影の形や濃淡で工夫できたことを自覚できるように、「本時の学習を通してできたことや気付いたこと」と「作品の静止画」をまとめた振り返りを提出するよう促し、影の表し方を工夫できている子どもを称賛する。 ○本時の活動を基に次時への見通しをもてるように、本時の学習を基に「次時に取り組みたいこと」を記入するよう促す。